

R. I. District 2610. ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2012-2013年度 RI会長 田中 作次
2012-2013年度 魚津RC会長 野澤 良成



第2857回 例会報告

2013年2月1日

点鐘・握手
君が代斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」
ロータリーの綱領の紹介・四つのテストの唱和



ゲスト並びにビジターの紹介

なし

誕生祝

2月7日 吉森さん



今年になり、元気が出てきたと感じています。その一つとして、根岸さんの卓話の内容もさることながら、お洒落できれいであんな風になりたいと思うと、魚津RCの先輩を見倣わねばならないと感じたことがあります。このような方々と同じ空間・時間を共有することは幸せで素敵な事だと思ふようになりました。魚津RCに参加したきっかけは主人の代わりでいつでもチェンジできるようにとのことでしたが、よしんば主人が「出れるようになったよ。」と言っても「もう、良いよ。私がずっと行く。私をロータリーに行かせる年会費を稼いでください。」と言うかもしれません。

これからも学ばねばならない事が沢山あり、標語ではありませんが、「これからの毎日、感謝と笑顔で一日一日を大事に」過ごしていけたらなあと思っています。未熟ですが可愛がっていただけるよう精一杯生活していきたいと思っています。今日は、ありがとうございました。

ポール・ハリス・フェローについて

説明 辻 S. A. A 委員長

いずれも2回以上の方、2名にバッジが届いています。1年間に一度とは限っていません。

回数が増える毎にバッジにサファイアが一個ずつ増えてきます。生駒さんは6回目でサファイアが5個付いています。野澤会長は2回目ですが、最初のは付いてなので1個だけ付いています。

たくさんの方に1,000ドル、その時その時のレートで1,000ドルですので、寄付をお願いします。

バッジ伝達 寺崎ロータリー財団委員長より

挨拶

生駒さん

長男が西RCの推薦により、米山財団でアメリカに留学させていただきました。そのお礼をさせていただきます。タバコを止めたり、酒の量を少なくして貯金したものを返して頂きたい。

野澤さん

早いうちという事で寄付させて頂きました。1週間も経たないうちにバッジが届き、仕事が速いと思っています。皆さんも是非参加して頂ければと思っています。



会長挨拶



今日は素晴らしい天候に恵まれました。今後、暖かい日、寒い日の温度調整をしっかりして頂き、風邪など引ないようにして頂きたい。本日の誕生日のお祝い、吉森さんおめでとうございます。ロータリーに慣れ、今一番生きがいではないかと思っています。

早いもので今日から2月。2月1日に私の住んでいる水族館近くの村の三ヶ神明社で毎年、火祭りの行事がありまして、今日も八幡様の高松宮司さんにて神事が行なわれました。町の方では1週間も前だったかなあとと思っています。神主さんのお話から、私達人間は火がないと生きていけない位、大事・大切なもので、取扱いを間違うと、生命財産にかかわる大変なことになるので十分に気をつけながら、感謝しながら取り扱っていくことを再確認してきた所です。

この2月は、ロータリーカレンダーでは、世界理解月間でありまして、月間中に各クラブでは世界平和に不可欠な理解と親善を強調したクラブプログラムと活動を実施するよう要請されていると、2010年手続き要覧の122Pに書いてありました。私達の魚津RCでは何かなあと考え、頭に浮かんだのは釜山釜一RCとの友情交換事業を間隔を置いて続けることかなあと思いました。

野澤年度の活動も残りまだ5ヶ月と言うより、たった5ヶ月しかありません。

[年度当初のクラブ運営方針として6項目を挙げさせていただきました。]

- ① 会員同志の親睦と友情を深める品位ある例会の開催につとめる。
- ② 委員会活動の活性化と活動の継続・発展につとめる。
- ③ 広く市民にロータリー活動の理解と広報活動につとめる。
- ④ クラブ活性化の為に新しい会員を迎える努力をする。
- ⑤ インターアクト地区協議会の開催（6月魚津工業インターアクトクラブ）
- ⑥ 60周年記念事業に向けての企画・立案に取り組む。]

自分の所属する会員・委員会で早めに取組んでほしいと思っています。活動の推進をお願い致します。

幹事報告

・富山善意銀行より 会報誌

・2月例会案内

2月 8日 卓話 羽田君 (サンルート)

2月15日 ゲスト卓話

元魚津西部中学校校長 畠山敏一様 (サンルート)

2月22日 卓話 杉野君 (サンルート)

・2月SAA補助 寺崎、広浜、吉崎君

・魚津市内の全保育園で鬼を追い出した。寺田さんから子供たちに豆をプレゼントして頂いた。

出席報告 羽田出席副委員長

本日の出席者 35名 出席率87.5% 欠席者 5名

メイクアップ済み 杉野さん

2851回のメイクアップ なし

2851回の修正出席率 82.5%→82.5%

ニコボックス報告 辻(英)ニコボックス委員長

・野澤さん→残り5カ月。委員会活動、例会もよろしくお願ひします。

委員会報告

ロータリーの友2月号の紹介 大島会報委員

1 医師の菅谷さん(略歴P⑤に記載)は「チェルノブイリ原発事故のその後と福島」で「日本は今

まで被害者だと言ってきたが、今、加害者である。」と書いておられる。また、除染は物理的に不可能であるとも書いておられる。

ベラルーシの政府高官からは、チェルノブイリはもう終わってしまったことだ、という話を受けたが、専門家としての実体験を踏まえ、チェルノブイリの事故の影響は、現在も進行形で、今後の見通しすら立っていない、ということである。

- 2 (株)ハニーズ社長、いわき平ロータリークラブの江尻さんの『鮮度』を支える情報収集力とスピード」はアパレル業界で彗星のように出てきて大活躍された江尻さんの記事である。行動的な方で、先を見てやっていく方でもある。
- 3 P25で、魚津ロータリークラブの「水力発電所見学」が紹介されている。メンバーが皆、後ろ向きに写って紹介されている。
- 4 R I 田中会長のメッセージには、世界平和の推進のこと、平和に関する歴史的なことも書いてある。
- 5 ポリオ撲滅のことも書いてあります。ポリオを撲滅させる5つの理由、活動を継続していく必要性が切実に書かれている。皆様方からの寄付の大切なことが分かる。

本日の卓話

○ 大城世界社会奉仕委員長より、根岸さんの紹介

「WCS (世界社会奉仕)について」 根岸さん

世界社会奉仕.WCS フィリピン、ボンソン島の医療奉仕活動に辿りつく迄



世界社会奉仕.WCSの誕生

1905年にロータリークラブが誕生。16年間は景気の関係もあり単なる会合を重ねていた。1905年の16年後、1921年第12回R I 国際大会がスコットランドのエジンバラで6月13日～16日迄開催、この時の大会決議案はポール・ハリスによって次のように発表された。

(大会決議)

「今迄、ロータリーはただ政治や経済や社会情勢の事の会合を重ねて参りました。今日からは世界に向かって奉仕活動を行う事を決議する。」と宣言したのです。

(ロータリーの綱領第4項に)

奉仕の理想に結ばれた事業と、専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と平和を推進すること。

これは、1991年～1992年、私、根岸が2610地区の世界社会奉仕委員長に在籍中、R I 日本支局発行の文書「ポールハリス」より抜粋。本書が見付からないので大まかな記憶によりまとめた。

当時の「ロータリーの友」誌の地区社会奉仕WCS委員長さんの投稿に、千葉ロータリークラブの様子を読んで発奮、私は地区WCS社会奉仕プロジェクトを決意しました。

日本から近い、青春時代に大東亜戦争の時お世話になったフィリピンが良いだろうと思いました。フィリピンのボンソン島にしました。ガバナーの浅尾さん、黒部の米沢さん、石川県の内田さんと3年間かけてやりました。

※ 進め方について -----

1 委員会を開いて

年度初めにWCSの勉強会を続けて実施し、意義を徹底する。ちょっと、委員会活動のスタートが大変遅いようです。次年度の委員会には、年度初めの7月には徹底して勉強して貰いたい。

2 世界社会奉仕プロジェクト交換一覧表を入手する。

パソコンを駆使して、海外のロータリークラブで社会奉仕に物資、資金、人材、技術、ロタホーム建設、井戸掘り、又、行政の行き届かない事業など援助を求めているクラブの一覧

- 表を入手する。
- 3 語学に堪能な人、主に東南アジア(英語)現場で実施の際、委員の中に人材の有無を考慮に入れておく。誤解を起こさないよう注意する。
 - 4 世界は広いけど、出来るだけ東南アジアをお薦めする。
私が実施したフィリピンでも英語、タガログ語、スペイン語他地方語が35~36の言葉あります。
 - 5 予算は委員会の予算では大抵不足すると思います。
地区の世界社会奉仕委員長に、予算が計上されたら早めに相談する。
 - 6 力不足なら隣接するクラブに声を掛ける。
分区のクラブへも呼び掛けて共同プロジェクトとして取り組んで成果を上げているクラブもある。
 - 7 RIから色々の補助金制度があるから活用する。
日本は世界でも最も多くの資金を納めている国です。この際、上手に世界に良い事をする資金に使うべきです。

先ず、東南アジアの発展途上国のプロジェクト交換プログラム一覧表を検討して決める事にした。当時、高岡の万葉ロータリークラブが偶然フィリピンのセブ・フェンテ・ロータリークラブと奉仕活動のプロジェクト交換締結が済んでいました。

そこで地区委員長として、何が相手国の為になるかを検討した結果、医療品には傷バン、美しい印刷のカレンダー、家庭用品のタオルをフィリピンのセブ・フェンテ・ロータリークラブへ送った。40cm×70cm×50cmの段ボール140梱を送った。この段ボール箱は石崎産業さんに100個と黒部ロータリーの米沢ガバナーに40個ご協力を戴きました。セブのクラブでは大変喜んでくれました。



その時、ご協力戴いたのは魚津クラブのメンバーだった日通の中田支店長。この荷物を送る手続きが大変で米沢幸明ガバナーの協力を得て、黒部ロータリークラブの事務所の一室をお借りして56クラブから集積した荷物140梱で満室にしながら援助物資の輸出手続きに3週間もかかった。

その手続きの内容は 援助物資なら輸出税1000ドル迄の物なら無料ですが、運賃、神戸港からセブ倉庫迄の手間代や現地に着荷したら倉庫管理料が掛かりました。予想外の経費が掛かりました。着荷してから荷受人の変更で手間取り、牧師さんに受け取って貰いました。

※ スライド紹介



- ・中央が私です。セブ・フェンテ・ロータリークラブの前会長は帰化した日本人であり、歓迎して呼んでくれました。
- ・魚津クラブにも卓話に来ていただいた高岡の万葉ロータリークラブの方です。



あとがき

根岸さんの卓話は熱意に溢れ、具体的・歴史的な内容であり、原稿を元に詳細な部分まで載せました。

今シーズン初めて、スキー場に出かけました。スキー客は回復傾向と聞いていたが、待ち時間なくリフトに乗れました。お客さんは増加しているが、リフトの高速化、2人乗り・4人乗りにより、輸送力が高まり、待ち時間が減少したとこじつけてみました。